

第 31 回国際心理学会議 開催結果報告

1 開催概要

- (1) 会議名 : (和文) 第 31 回国際心理学会議
(英文) The 31th International Congress of Psychology (略称: ICP2016)
- (2) 報告者 : 第 31 回国際心理学会議組織委員会委員長 繁樹 算男
- (3) 主催 : 公益社団法人日本心理学会、日本学会議
- (4) 開催期間 : 2016 年 7 月 24 日 (日) ~ 7 月 29 日 (金)
- (5) 開催場所 : 横浜国際平和会議場 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
- (6) 参加状況 : 95 カ国/地域・8,026 人 (国外 4254 人、国内 3772 人)

2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯 :
国際心理学会議は、国際心理科学連合 (IUPsyS : International Union of Psychological Science) が 4 年ごとに開催する会議であり、1889 年の第 1 回から当会議で 31 回を迎える心理学分野で最も歴史のある国際会議である。2010 年 7 月に開催された国際心理科学連合 (IUPsyS) の総会において、第 31 回国際心理学会議を 2016 年 7 月に日本で開催することが決定された。これを受け、日本心理学会は、日本開催準備のために、第 31 回国際心理学会議組織委員会(および実行委員会)を 2011 年に設置し、開催の準備を進めることとなった。日本での開催は、第 20 回以来、44 年振り、2 回目の開催となる。この度の日本開催は、世界のトップレベルの研究者が一堂に会し、最新の研究成果についての討論や発表が行われることにより、心理学のさらなる発展に寄与することを目的としている。
- (2) 会議開催の意義・成果 :
日本及びアジア諸国の心理学研究を全世界の研究者と一般市民に大きくアピールし、多くの研究者の参画を促す絶好の機会となり、日本とアジアの心理学に関する研究を一層発展させる契機となった。
- (3) 当会議における主な議題 (テーマ) :
メインテーマ : “Diversity in Harmony: Insights from Psychology”
主要題目 : 基礎、発達、臨床、社会などのオーソドックスな領域をさらに細分化し、コミュニティ心理学、進化心理学、ハラスメント防止、健康心理学、社会脳、交通心理学など 63 のトピックを設けた。
- (4) 当会議の主な成果(結果)、日本が果たした役割 :
世界中から 8,000 人にのぼる参加者があり、前回大会に比べて参加数も大幅に増加した。この参加者数は、歴代 2 位の数字であり、非欧米圏での開催としては大成功だったといえる。とくに日本を含むアジア関係のセッションが盛況であり、日本での ICP の開催が、世界の心理学界における日本およびアジア心理学の地位向上に寄与できた。
- (5) 次回会議への動き :
次回の国際心理学会議は、2020 年 7 月 19 日~7 月 24 日に、チェコ・プラハで開催される。

今回のテーマである「Diversity in Harmony: Insights from Psychology」を前提として、次回のテーマは「OPEN MINDS, SOCIETIES & WORLD」となった。

(6) 当会議開催中の模様：

6日間にわたり、以下の通り約8000件の発表が行われ、各会場とも活発な議論が展開された。

Keynote Address(27件), Invited Address(135件), Invited Symposium(organizer152件, speaker591件, Discussant85件), Contributed Symposium(organizer132件, speaker517件, Discussant91件), Thematic Session(organizer126件, speaker492件, Discussant73件), Oral presentation(2093件), Poster presentation(2922件), Rapid Communication(461件)

(7) その他特筆すべき事項：

ICP2016は日本の他にイタリアが立候補した。そして、2010年IUPsyS総会において、プレゼンテーション後に投票が行われ、開催地が日本(横浜)に決定した。日本での開催にあたって、日本学術会議との共同主催が実現したことに加え、68の関連学協会にも協賛をいただくことができた。

3 市民公開講座結果概要

3 市民公開講座結果概要

(1) 開催日時：

- a. 2016年7月24日(日) 12:30-15:00
- b. 2016年7月24日(日) 13:30-14:30
- c. 2016年7月25日(月) 17:20-18:20
- d. 2016年7月26日(火) 17:20-18:20
- e. 2016年7月27日(水) 17:20-18:20
- f. 2016年7月28日(木) 17:20-18:20
- g. 2016年7月28日(木) 18:40-19:40

(2) 開催場所：パシフィコ横浜

(3) 主なテーマ、サブテーマ：

- a. 中学生・高校生のための心理学ワークショップ 自分の顔を探せ！——鏡が映す顔、心が映す顔——
(企画・講師：池田まさみ(十文字学園女子大学)・渡邊淳司(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)・北崎充晃(豊橋技術科学大学)・茅原拓朗(宮城大学)・大崎章弘(お茶の水女子大学)・吉田成朗(東京大学大学院)・上田祥代(お茶の水女子大学大学院))
- b. アニメーションにおける運動はどう創造されるのか
(講師：山村 浩二(ヤマムラアニメーション・東京藝術大学))
- c. 「見るなの禁止」について：恥の文化における深層心理学
(講師：北山 修(白鷗大学))
- d. 日本の教室における多様な学びと心理学の役割～その歴史、現在、そして今後～
(講師：柘植 雅義(筑波大学))
- e. 児童虐待からの再生——児童虐待は脳の成熟にどのように影響を与えるか——
(講師：内田 伸子(十文字学園女子大学))

f. コミュニケーションの質は脳活動の同期で推測できる
(講師：川島 隆太 (東北大学加齢医学研究所))

g. 犯罪捜査への心理学の応用：その歴史、現状、将来
(講師：越智 啓太 (法政大学))

(4) 参加者数、参加者の構成：

- a. 46名 (中学生・高校生)
- b. 30名 (一般市民・国内外研究者)
- c. 70名 (一般市民・国内外研究者)
- d. 80名 (一般市民・国内外研究者)
- e. 130名 (一般市民・国内外研究者)
- f. 80名 (一般市民・国内外研究者)
- g. 20名 (一般市民・国内外研究者)

(5) 開催の意義：

複雑化・多様化する現代において、社会や個人がかかえる問題の解決のため、心理学の知見を広く一般に公開すること。また、社会の様々な領域において活躍している心理学関係者（研究者、教育者等）の、心理学に係る知識、技能を有効かつ適正に運用するための資質向上を図り、社会の福祉に貢献すること。

(6) 社会に対する還元効果とその成果：

様々な領域の心理学に関して、専門家からわかりやすく説明を行った。講演後には質疑応答をおこない、一般市民だけでなく、国内外の研究者からも活発な質問や意見が出された。

また、a. 「中学生・高校生のための心理学ワークショップ 自分の顔を探せ！——鏡が映す顔、心が映す顔——」は、横浜市との共催で「次世代育成事業」として、中学生・高校生を対象に開催した。次世代を担う若者たちに、脳と心の関係について理解を深めてもらうことを通じて、科学的なものの考え方を教授した。

(7) その他：

講演はすべて日本語で行われたが、a (中学生・高校生を対象としたワークショップ) を除き、いずれも同時通訳や、英語版の発表スライド、配布資料等を用意することによって、海外からの参加者も聴取可能となるように開催した。

4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

開会式に秋篠宮紀子妃殿下をお招きできご挨拶を頂けたことは、本会にとってとても名誉なことであった。これが日本学術会議との共同主催の大きな意義の一つである。